

## 随想 加古里子先生の世界遺産の本に感動して

藤嶋昭

科学絵本の作家としても良く知られた加古里子先生が 2018 年 5 月 2 日、92 歳で亡くなりました。私は 20 年近く加古先生と親しくさせていただきました。私が長く研究してきた光触媒について、子供たちにも分かりやすい本に纏めたいとの思いから、加古先生にお願いをして、『太陽と光しょくばいものがたり』という科学絵本を共著で出版させていただいたこともありました。



お亡くなりになる一か月前には NHK の密着取材を受けておられましたが、私にもぜひ来てほしいとのお話をいただいたとき、その時も親しくお話をさせていただきました。

加古先生は、本名を中島哲と申され、東京大学工学部の応用化学科の御出身で、昭和電工の研究所では多くの研究成果をあげられました。

日本化学会に長い間所属され、学会の企画した『世界の化学者 12 か月』や朝日新聞に連載された『科学者の目』などのすばらしい本も出版しておられ、日本化学

会の特別教育貢献賞を受けておられます。

世の中で加古先生のお名前が良く知られているのは、『からすのパンやさん』『だるまちゃんとてんぐちゃん』『どろぼうがっこう』などの絵本作家としてで、百万部以上出版されているミリオンセラー絵本が 3 冊もあります。

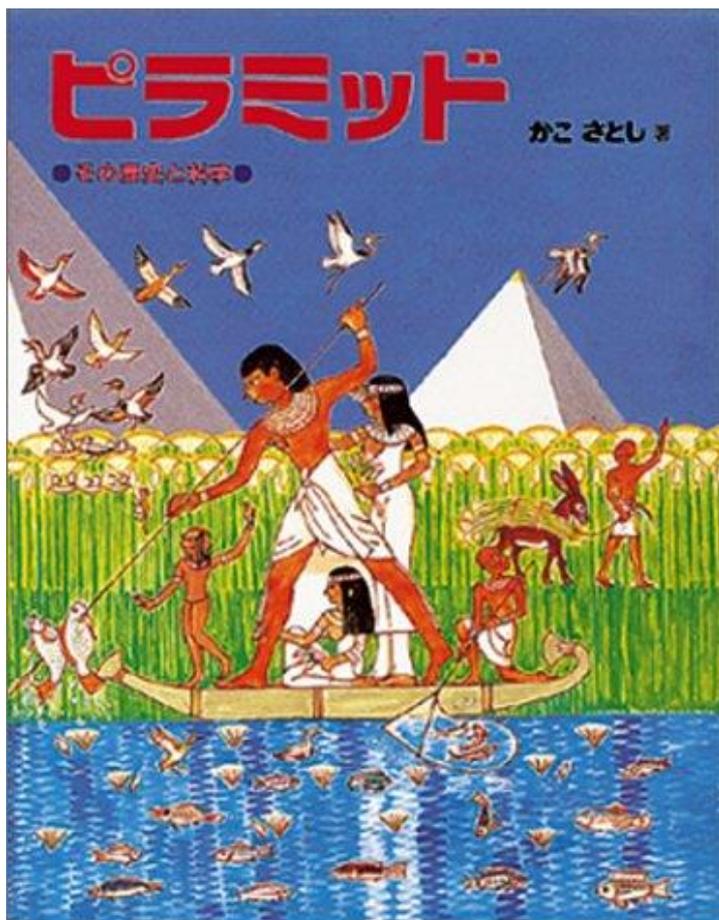
『宇宙』『地球』『海』『大きな大きなせかい』『小さな小さなせかい』など、科学の世界をまとめた本も多数出版されています。どの本を書かれる時も、長い期間に渡って詳しく資料を集め、各種データを比較しながら、わかりやすい図にまとめられていることが大きな特徴です。

私は中学校や高校で出前授業をすることがありますが、加古里子先生を紹介する時には、名著『ピラミッド』、『万里の長城』、『ならの大仏さま』を取り上げることにしています。これら世界遺産についての内容の深さ、広さを子供達にも味わって欲しいとの思いからです。

ここでも加古先生による世界遺産のこれら 3 冊について紹介してみたいと思います。

### 『ピラミッドーその歴史と科学』（借成社、1990）

エジプトの歴史は紀元前 8000 年頃から始まっています。紀元前 2500 年頃、クフ大王の時にナイル川の下流ギザに作られたのが大ピラミッドです。一辺



が 236m、高さ 147m と今もその雄姿を示しています。使われた石の数は 270 万個と言われています。

石灰石は比較的やわらかい石ですが、鉄がまだない時代に一つ 2.5 トンの石をきれいに削り、それを一日およそ 7~8 千人の人によって運びました。ピラミッドの方角や水平面も正確であることに驚きます。

クフ大王より後の王もピラミッドを作りましたが、石材や積み方が悪かったピラミッドの多くが崩れ、原型をとどめていないことを、加古先生は如実に図示しています。基礎がいかに大切かを教えられる場面です。

エジプト王家は紀元近くまで続き、最後の指導者は美人で有名なクレオパトラ 7 世。彼女とローマのシーザーとの間に生まれたカエサリオンの時にエジプ

ト王国は終わりました。

この本は、エジプトの歴史を謎ではなく生きた歴史として捉えたい、その文明の盛衰の中に、現在の私たちが汲み取り未来に受け継ぐべき要素のあることを明示したいとの、加古先生の深い思いの詰まった一冊です。

近年、日本人研究者によって大ピラミッド周辺の発掘・復元作業が行われていましたが、その現場の作業用テントに光触媒テント材が使われ、作業環境の改善に一役買っていたことは、加古先生の本を通してエジプトの歴史と科学を学んできた者として、非常に感慨深いことでした。

### 『万里の長城』（加古里子 [文と絵]・常嘉煙 [絵] 福音館 2011）

中国の名所は何といても万里の長城です。秦の始皇帝が、かつて戦国時代に作られた壁を直し、らに新しく延長したもので、その長さから万里の長城と言われるようになりました。その後、漢の時代には西域へと伸ばされ、その先にシル



クロードが開かれました。

北京の近くの観光で訪れる万里の長城は、明代に三百年かけて補強新設工事をしたもので、1～5kmごとに烽火台があり、兵士が生活できるような大きなものになっています。

加古先生は、六千年に及ぶ長い中国の歴史を説明しながら、2万kmを越す万里の長城の成り立ちを中国人の画家の友人と力を合わせてまとめられました。

各代の皇帝、孔子や孫子などの中国が生んだ思想家、さらに李白や杜甫などの詩人についても紹介されている楽しい本です。

私自身も今から 40 年前を始めとして、中国で科学研究者となった教え子達との共同研究の折々に十回以上訪ねていますが、その大きさ、長さなどに驚くばかりです。

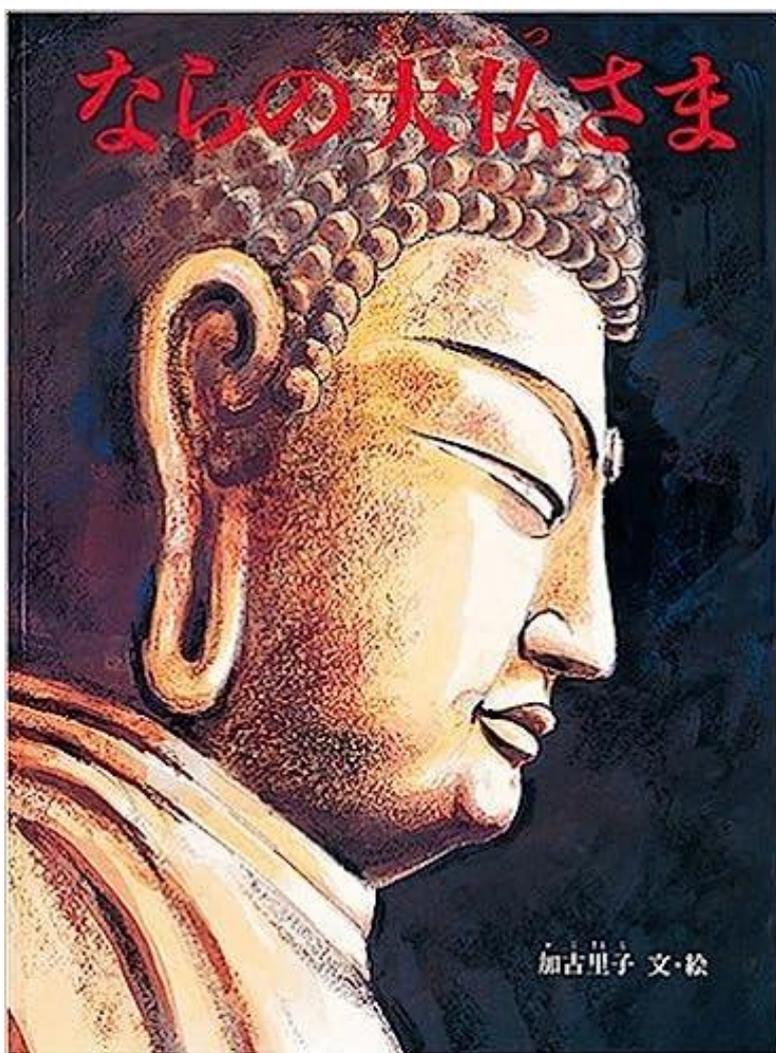
### 『ならの大仏さま』復刊ドットコム 2006、初版は（福音館 1985）

後に大仏建立に力を注ぐことになる聖武天皇は、24 歳にして天皇の位につきました。その当時は、飢饉、地震、疫病などの災害があり、貴族間では策略、密告などがうずまいていました。若き天皇は、この国から醜い争いを取り除き、安泰に平和に発展させたいと切望しました。光明皇后のすすめもあり、聖武天皇

はしだいに仏教に心を傾けていきます。

しかし、光明皇后との間に生まれた基王（もといおう）は1歳で亡くなってしまいます。その後紆余曲折を経て、基王を弔っていた金光明寺のところに大仏殿を建てることになり、天平 17 年（745 年）から工事が始まりました。

大仏の大きさですが、人が座っている時の十倍以上を考えて高さは 16 メートルとしました。使った銅は 500 トン、錫が 8.5 トン、仏像表面を金でコーティングするための金 130kg、水銀 820kg。その手



法は水銀に金を溶かしたアマルガムにし、それを塗ったあとに高温にして水銀をとばす方法でした。今考えると、毒性の水銀蒸気のたちこめる危険な作業です。

大仏さまの入る金堂（大仏殿）は長さ 30 メートルの柱を使った世界一の木造建築物となり、天平勝宝 4 年（752 年）4 月 9 日、長さ 1.2 メートルの大仏の眼に筆で瞳が描き入れられた開眼式は、聖武上皇、光明太后を始め多くの人の祝福を受けての大祝宴となりました。

以後、日本の歴史がめまぐるしく動く中で、源平の乱での炎上破壊とその後の再建など、大仏も大仏殿も破壊と修復の歴史を辿り、現在に至っています。

一方で、豊臣秀吉の作った「京の大仏」は、破壊された後再建されることはありませんでした。「ならの大仏さま」が現在まで存在しつづけてきたのはなぜか、その力のおおもとは何かを考えて欲しいという作者からのメッセージが込められた本です。

## おわりに

加古先生の世界遺産の本に通底しているのは、時間的にも空間的にも俯瞰した視点から、総合的に文明を捉えてみたいとの思いです。そして読者にも、多面的に真実迫る目を養ってほしいとの思いが溢れています。

科学絵本は決して子供だけの本ではなく、大人にも充分読み味わう価値のあるものにできる、そのことを示した点でも、加古先生の功績は計り知れません。

「科学を知り、好きになり、楽しんでほしい」との加古先生の思いに私も共感し、『かこさとし 科学絵本の世界』を 8 月に学研プラスから出版することにしました。

（東京大学特別名誉教授、東京理科大学名誉教授、東大・工博・工修・昭 43）

学会会報 2022 年 9 月号

